

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：22304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K12200

研究課題名(和文) 高齢者ケア従事者とその学生を対象とした高齢者イメージ・態度プロフィール尺度の開発

研究課題名(英文) Development of a geriatric impression and attitude scale for care workers and nursing students in elderly care

研究代表者

狩野 太郎 (KANO, Taro)

群馬県立県民健康科学大学・看護学部・教授

研究者番号：30312896

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は看護師や介護士など的高齢者ケア従事者とその学生の高齢者への共感的態度を評価する尺度の開発である。文章完成法とフォーカスグループインタビューに基づいて高齢者に対する共感的態度暫定版尺度を作成し、信頼性と妥当性を検討した。看護師、介護士、およびその学生、618名に調査を依頼し、251名から有効回答を得た。因子分析の結果、生き方の理解と価値付け、コミュニケーションスキル、外見変化の価値付けからなる3因子構造、15項目のスケールが完成した。このスケールは、良好な信頼性と基準関連妥当性を示すとともに、高齢者ケアに対する魅力の評価や高齢者ケアへの従事希望と正の相関を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果、看護師や介護士とその学生らに適用できる高齢者に対する共感的態度の評価スケールを開発することができた。このスケールでは、一部の逆転項目で高齢者に対するネガティブな態度をたずねているが、全体的にはポジティブな態度に関する質問項目で構成されている。これまで国際的に数十年にわたって利用されていたKATOPやASDでは評価が困難な高齢者に対する共感的態度に焦点を当てた新規のスケールである。現在国際誌への投稿手続き中であるが、本スケールの多言語版が普及すれば、KATOP等と組み合わせることで、教育カリキュラムの評価や職業定着の予測など幅広い活用が期待できる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a measurement scale for evaluating the empathetic attitudes of personnel involved in elderly care, including nurses, caregivers, and those students. Based on sentence completion tests and focus group interviews, the Empathic Attitudes Toward Elderly Scale (provisional version) was created, and its reliability and validity were evaluated. A total of 618 nurses, caregivers, and those students were requested to participate in the survey, and 251 submitted valid answers. As a result of factor analysis, we developed three-factor structure scale consisting of 15 items and three factors named "understanding and appreciation of lifestyle", "communication skills", and "appreciation of appearance changes". This scale exhibited favorable reliability and criterion-related validity, and showed positive correlation with the appeal of elderly care and the willingness to engage in elderly care.

研究分野：老年看護学

キーワード：高齢者 共感 態度 イメージ 尺度開発 看護師 看護学生 介護士

1. 研究開始当初の背景

高齢者人口の増加に伴い、高齢者に対するケアニーズが量的にも質的にも増加している。将来の高齢者ケアの担い手である看護師や介護士を目指す学生たち的高齢者に対する態度やイメージは、今後のケアの質に大きな影響を与えるとともに、彼らの職業定着にも影響を及ぼすと考えられる。高齢者に対する学生達のポジティブな態度は、教育カリキュラムや臨床実践でのポジティブな体験と関連していることが報告されている(Hsu et al., 2019; Hovey et al., 2017)。教育カリキュラムや臨床実践の開発と評価に向けて、学生の高齢者に対するイメージや態度を評価する適切な測定用具に対するニーズが高まっている (Nevill, 2015)。

高齢者に対する態度を測定する指標としては、Kogan ' s Attitudes Toward Old People scale (KATOP)が最も広く使用されている(Neville, 2015)。

KATOP は Kogan によって 1961 年に発表され、高齢者に対するネガティブな感情 17 項目とポジティブな感情 17 項目、合計 34 項目を 7 段階のリッカート尺度で回答するスケールである(Kogan, 1961)。KATOP はこれまで多くの研究で利用されてきたが、開発から 60 年が経過し、近年の高齢者を取り巻く社会情勢やコミュニティ環境、医療技術を反映していないとの批判がある(King et al., 2013; Rodgers and Gilmour, 2011; Runkawatt et al., 2013)。

このほか、Aging Semantic Differential (ASD) も国際的に広く利用されている(Rosencranz and McNevin, 1969)。ASD は高齢者を含む様々な年代に対する態度を測定するために開発された 32 の形容詞ペアで構成されている。開発から 50 年以上が経過し、言語表現が時代に合わなくなっている (Polizz, 2003) 。因子構造が不安定である(Intrieri, 1995. Gonzales, 2010)などの指摘がある。

KATOP、ASD とともに高齢者に対する差別意識やネガティブな感情の評価に重点が置かれており、共感的態度の評価を目的としていない。このため、本研究では看護師や介護士およびその学生への使用を前提とした高齢者に対する共感的態度やイメージを測定するための尺度を開発することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護師や介護福祉士など的高齢者ケア従事者とその学生の高齢者に対する共感的イメージ・態度評価尺度の開発である。

3. 研究の方法

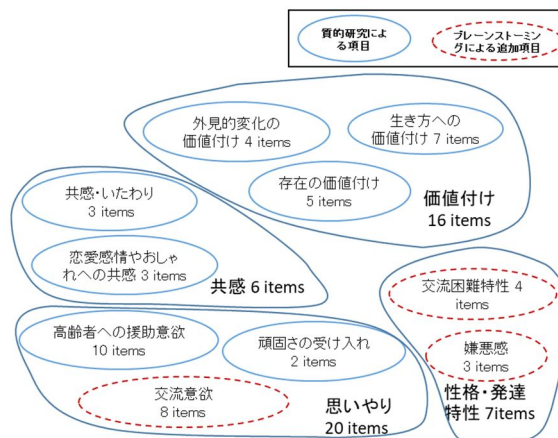
質問項目の検討と概念構造の検討のため、看護学生 95 名が参加した文章完成法による質問紙調査と、看護学生、看護教員、介護士を対象としたフォーカスグループインタビューを実施した。文章完成法とフォーカスグループインタビューで得られたデータを質的帰納的に分析して概念構造を検討した後、49 項目からなる暫定版質問紙を完成させた。

信頼性と妥当性を検討するために、北関東地方にある 4 年制看護大学 1 カ所の 167 名、3 年制看護専門学校 1 カ所の 80 名、看護師研修機関 1 カ所の 212 名、認知症認定看護師養成機関 1 カ所の 29 名、介護士養成学校 1 カ所の 26 名、介護士研修機関 1 カ所の 74 名、高齢者入所施設 1 カ所の 30 名、合計 618 名に大規模調査を依頼した。調査は無記名、郵送法により実施し、49 項目の暫定版質問紙、年齢、性別、職種や学年、祖父母との同居や介護経験、高齢者ケアに対する意欲、高齢者ケアに対する自身の適性の評価、子どもころの高齢者との交流体験を調査した。また、基準関連妥当性を検討するため、Jefferson Scale of Empathy (JSE) - HPS (Hojat, 2018)を使用した。

4. 研究成果

1) 暫定版質問紙

文章完成法による質問紙調査と、フォーカスグループインタビューで得られた記述と語りを意味内容の類似性に従って分類し、質的帰納的に分析した。この結果、完成文章や語りは 7 のサブカテゴリに分類され、これをさらに類似性に従って分類した結果、3 つのカテゴリに



図：高齢者に対する共感的イメージ・態度の概念図

分類された。次に、質問文章の候補であるアイテムプールを充実させるため、文章完成法で得られた表現に関連した別の表現をアイテムプールに追加した。例えば、「高齢者との雑談が好きだ」との表現から、「高齢者との雑談が苦手だ」という表現を、「高齢者のゆっくりしたペースが好きだ」との表現から、「何をしても高齢者とはペースが合わない」という表現を新たにアイテムプールに加えた。このようなブレーストーミングのプロセスから、「コミュニケーション困難特性」「嫌悪感」のサブカテゴリを着想し、これらに対応するアイテムプールを検討して追加するとともに、【性格・発達特性】のカテゴリに統合した。サブカテゴリごとに、2つから7つの質問文をアイテムプールの中から採用したところ、全体のアイテム数は49項目となった。この結果、49項目を「1. 全くそう思わない」～「5. そう思う」の5段階リッカート尺度で評価する暫定版スケールが完成した。

2) 大規模調査結果

質問紙調査を依頼した618名のうち、263名から返答を得た。このうち、年齢や性別などデモグラフィックデータが未記入となっていた12名を除外した251名を分析した。有効回答率は40.6%だった。

項目分析の結果、床効果を示す項目は見られなかった一方、「高齢者の笑顔が大好きだ」「高齢者と一緒に過ごす時間は心地よい」「恋をしている高齢者はすてきだ」「恋愛ドラマを観ている高齢者に親しみを感じる」など、49項目中29項目については天井効果が見られたため質問項目から削除した。残った20項目について項目間の相関を分析し、Spearman's ρ が0.8以上となる項目のペアを確認した。この結果、複数の項目と相関が見られた2つの項目を削除し、項目分析のプロセスにより18項目が候補に残った。この18項目を用いて探索的因子分析を実施し、0.4以上の因子負荷量を示すものを採用の条件としたところ、1項目が削除された。残る17項目で因子分析を行い、因子負荷量が1を超える不適切解や、回転が収束しないモデル、解釈困難な因子構造となるモデルを除外して採用する項目を検討した。この結果3項目を除外し、15項目で分析したところ、5回の反復で回転が収束し、3因子構造のモデルが得られた。

「高齢者は周囲への感謝の言葉がけを大切にしている」「多くの高齢者は、人付き合いが上手だ」などの6項目からなるFactor1は【生き方の理解と価値付け】と命名し、「高齢者との雑談が苦手だ」「高齢者に話しかけられるのが苦手だ」「私はわりと簡単に高齢者と親しくなれる」などの6項目からなるFactor2は【コミュニケーションスキル】と命名した。「まるくなった高齢者の背中に愛着を感じる」「シワがよった高齢者の手に愛着を感じる」などの3項目からなるFactor3は【外見変化の価値付け】と命名した。

信頼性の指標であるCronbach's α は15項目全体で0.86、3つのサブスケールでは0.81 - 0.85となっていた。test-retest reliabilityを確認するため、看護学生28名と看護師29名に行った1週間後の再テストと初回テストのtotal scoreの比較では、Pearson's $r=0.79$ ($p<.01$)だった。

基準関連妥当性を検討するため、合計得点、下位尺度得点とJSE-HPSの相関を検討したところ、合計得点、【生き方の理解と価値付け】、【コミュニケーションスキル】、【外見変化の価値付け】で弱い相関が見られた。

高齢者ケアに対する魅力を5段階で評価した評価と総合得点は有意な相関を示し、ケアに対する魅力を高く評価する者ほど共感性が高くなっていた。また、高齢者ケア従事への希望も共感

表 因子構造と質問項目 (抜粋) 注

Variable		Factor		
		1	2	3
Factor1:生き方の理解と価値付け	0.82			
高齢者は周囲への感謝の言葉がけを大切にしている		0.82	0.00	-0.04
多くの高齢者は、人付き合いが上手だ		0.77	-0.10	-0.09
ほか、計6項目	
Factor2:コミュニケーションスキル	0.80			
高齢者との雑談が苦手だ*		0.02	0.82	-0.09
高齢者に話しかけられるのが苦手だ*		-0.03	0.80	-0.02
ほか、計6項目	
Factor3:外見変化の価値付け	0.85			
まるくなった高齢者の背中に愛着を感じる		0.08	-0.07	0.89
ほか、計3項目	

*印がついた項目は逆転項目

注：現在投稿中につき、15項目中5項目のみ抜粋表示した

性と有意な正の相関を示した。

3) 結論

本研究の結果、15項目で構成され、3つの下位尺度を持つ、高齢者に対する共感的イメージ・態度の評価尺度が完成し、信頼性と妥当性が確認された。

【引用文献】

- ・Gonzales, E., Tan, J., Morrow-Howell, N., 2010. Assessment of the refined aging semantic differential: recommendations for enhancing validity. *J Gerontol Social Work.* 53(4), 304-318.
- ・Hojat, M., DeSantis, J., Shannon, S.C., Mortensen, L.H., Speicher, M.R., Bragan, L., et al., 2018. The Jefferson Scale of Empathy: a nationwide study of measurement properties, underlying components, latent variable structure, and national norms in medical students. *Advances in Health Sciences Education.*
- ・Hovey, S., Dyck, M.J., Reese, C., Kim, M., 2017. Nursing students' attitudes toward persons who are aged: An integrative review. *Nurse Educ. Today* 49(), 145-152.
- ・Hsu, M.H.K., Ling, M.H., Lui, T.L., 2019. Relationship Between Gerontological Nursing Education and Attitude Toward Older People. *Nurse Educ. Today* 74, 85-902.
- ・Intrieri, R.C., von Eye, A., Kelly, J.A., 1995. The aging semantic differential: a confirmatory factor analysis. *Gerontologist.* 35(5), 616-621.
- ・King, B.J., Roberts, T.J., Bowers, B.J., 2013. Nursing student attitudes toward and preferences for working with older adults. *Gerontol. Geriatr. Educ.* 34 (3), 272-291.
- ・Kogan, N. 1961. Attitudes toward old people: The development of a scale and an examination of correlates. *J. Abnorm. Psychol.* 62(1), 44-54.
- ・Nevill, C., 2015. Undergraduate nurse attitudes toward older adults and perceptions of working with older adults: An analysis of measurement instruments. *Nurse Educ. Today* 35(1), 183-188.
<https://doi.org/10.1016/j.nedt.2014.09.001>
- ・Polizzi, K.G., 2003. Assessing attitudes toward the elderly: Polizzi's refined version of the aging semantic differential. *Educ Gerontol.* 29(3), 197-216.
- ・Rodgers, V, Gilmour, J., 2011. Shaping student nurses' attitudes towards older people through learning and experience. *Nurs Pract N Z.* 27(3), 13-20.
- ・Runkawatt, V., Gustafsson, C., Engström, G., 2013. Different cultures but similar positive attitudes: a comparison between Thai and Swedish nursing students' attitudes toward older people. *Educ. Gerontol.* 39 (2), 92-102.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 狩野太郎, 樋口友紀, 福島昌子, 清塚遊
2. 発表標題 文章完成法を用いた看護学生の高齢者イメージの分析
3. 学会等名 第23回日本老年看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taro Kano, Yuki Higuchi, Masako Fukushima and You Kiyoduka
2. 発表標題 Development of a provisional geriatric impression and attitude scale for care workers and nursing students in elder care
3. 学会等名 24th World Nursing and Healthcare Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	樋口 友紀 (Higuchi Yuki) (20341802)	群馬県立県民健康科学大学・看護学部・講師 (22304)	
研究分担者	福島 昌子 (Fukushima Masako) (20352619)	群馬県立県民健康科学大学・看護学部・講師 (22304)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹渕 由恵 (Takebuchu Yoshie) (80559170)	群馬県立県民健康科学大学・看護学部・助手 (22304)	
研究分担者	清塚 遊 (Kiyozuka Yu) (80767343)	群馬県立県民健康科学大学・看護学部・講師 (22304)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関